

(平成28年 12月分)

種 類	市況の概況
(水産物部の動向) 水 産 物 全 般	12月の水産物の総入荷量は、前年同月に比べると、鮮魚では全般に低調な漁模様となったことから入荷量が下回り、冷凍魚も海外需要が旺盛なため入荷の少ない状況が続いている。一方で、加工水産物の入荷が前年を上回ったことから、全体では前年同月並みであった。 総取扱金額は、前年同月に比べると鮮魚、冷凍魚は前年並みであったが、加工水産物は減少となり、全体として3%下回った。
(区 分 別 の 動 向) 鮮 魚	12月の鮮魚の入荷量は、前年同月と比べ6%下回ったことから、平均単価は4%上回った。 品目別には、よこわ、まあじ、けんさきいかが好漁で入荷が増加となり、価格は値下がりした。天然まだい、あまだい、たら等は入荷が下回ったため、価格は値上がりした。 年末取引(12/26～12/30)の価格は、天然まだい、まぐろ類、たこは1割程度値上がりとなったものの、養殖まだいは1割程度値下がりとなるなど、通常取引と大きな変動はなかった。 1月はふぐ、たら、あんこう、かき、はまぐり等、鍋料理の具材となる魚や貝類が美味しい時期である。また、ぶり、さわらもこの時期は脂が乗っており、しゃぶしゃぶや焼き物に最適である。造り物ではひらめが旬となる。
冷 凍 魚	12月の冷凍魚の入荷量は、前年同月と比べ8%下回ったことから、平均単価は8%上回った。 品目別には、12月に最も需要が増える冷えびは、値上がりしたため、低調な荷動きとなり、入荷は下回った。冷さけは、生産量の減少から価格が値上がりしたが、荷動きが好調で、入荷は上回った。 1月は、輸入冷凍魚については、引き続き海外需要が旺盛で、為替も円安傾向であることから、価格は高止まりのまま続くことが予想される。国内物ではするめいか、さばの主な漁期は終わっており、秋まで入荷が少ない状態が続くことから、価格は値上がりするものと思われる。

加 工 水 産 物	１２月の加工水産物の入荷量は，前年同月と比べ１４％上回ったことから，平均単価は１７％下回った。 品目別には，開干さんま，開干あじは入荷が大きく減少したため，価格は値上がりとなった。身欠きにしんは入荷が上回ったことから，価格は値下がりした。 昨年 of 年末商材の動向を振り返ると，塩かずのこの価格は前年並みであったが，棒だらやいくらは，漁獲不振の為に減産となり，２割程度値上がりした。 １１月６日から始まった山陰沖かに漁は，１２月末で雌のせこがにが禁漁となったが，雄のずわいがにには３月２０日まで漁が続く。「かに鍋」や「かにしゃぶ」等，冬の間にかに料理を一度ご賞味いただきたい。 １月は節分に向けて塩いわしの取引が活発となる。
-----------	--

※生鮮魚：鮮魚，貝類，淡水魚

※冷凍魚：冷凍魚（鯨肉を除く）

品 目	市 況 の 概 要
(鮮魚主要品目)	
ま あ じ	和歌山，京都で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ３５％上回ったため，価格は２５％下回った。
ま い わ し	愛知，三重で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ６％下回ったため，価格は２５％上回った。
さ ば	千葉，韓国で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ２１％下回ったため，価格は３７％上回った。
す る め い か	鳥取，山形で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ７８％下回ったため，価格は６７％上回った。
太 物	入荷量は前年同月と比べ，，めばちまぐろは５％，本まぐろは１２％上回ったが，きはだまぐろが１２％下回ったことから，太物類の総入荷量は前年同月並みとなったが，高価格の本まぐろの増加により，価格は４％上回った。
ぶ り	鹿児島，愛媛で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ９％下回ったため，価格は６％上回った。
は ま ぐ り	中国，三重で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月並みであったが，大型サイズが少なかったことから，価格は６％下回った。
(冷凍魚主要品目)	
冷 さ ば	入荷量は前年同月と比べ３８％下回ったため，価格は１３％上回った。
冷 す る め い か	入荷量は前年同月と比べ５９％下回ったため，価格は６０％上回った。
(加工水産物主要品目)	
塩 さ け	入荷量は前年同月と比べ，塩銀さけは前年同月並みであったが，塩紅さけと塩白さけが１３％下回ったことから，塩さけの総入荷量は前

す け そ う こ	年同月と比べ7 %下回ったが、価格は塩紅さけ、白さけが需要の減退により値下がりのことから、塩さけ類全体では6 %下回った。 入荷量は需要の低下があり、前年同月と比べ17 %下回ったが。原卵価格が安定していたため、価格は前年並みであった。
-----------	--